



発行所(〒371) 前橋市古町1-50-21  
上毛新聞社  
電話(0272)51-4311(代表)  
内線4344(休日) 4344  
内線4345(午前) 4345  
内線4346(午後) 4346  
制作(0272)51-4363  
©上毛新聞社 1988



「東国市」構想の核になっている高崎(左)と前橋(右上)の市街地周辺

# 県央に「東国市」建設を

## 4市4町の合併論

### 「団域間埋没を打破」

県央地域の四市四町の民衆団体などで組織する社団法人・理想の都市群建設研究会(佐田義念会長)は、県央に政令指定都市「東国市」を建設する「東国市構想」を提唱した。この構想は、東京圏と他の極都市の差異を自慢とする各團塊の特性を活かすもので、「いままで単なる合併ではなく、住民が二十世紀の郷土のあり方を尊重する契機になれば」と話している。今回の提唱はこうした動きに「一石を投じること」にならう。

同研究会は十九年、北関東の拠点部形成を目指した五百万人超の大都市圏構成を目指す「東国市構想」を提唱。玉村、境川、群馬、新潟の四市四町の議会議員、商工会、青年議議員、各市町、民間会議の代表らがメンバーで、これまた東北地域の人口集積地が直面する課題を調査研究、提唱している形で報告書にまとめている。

今回の提唱、県央政府指定都市・東国市建設は、本県のイメージアップを研究課題とした県議会議員、群馬のC.I.戦略委員会(伊勢崎・新潟・東北経済研究所、各市町、民間会議の代表らがメンバーで、これが東北地域の人口集積地を強調する形で、東北地域の人口集積地は確立され、南北幹線鐵道が形成された場所を選び、同計画では南北幹線鐵道(八戸・仙台・福島・郡山・磐梯・宇都宮・鹿沼・新潟・東北経済研究所、各市町)を構成する中で「本県は東北の西側という立地性を保つ」とばらばらな

東北幹線鐵道は、南北幹線鐵道(八戸・仙台・福島・郡山・磐梯・宇都宮・鹿沼・新潟・東北経済研究所、各市町)を構成する中で「本県は東北の西側とい

農協に行政監察のメス (2面)  
ガソリン代替品量産可能に (3面)  
仏社会党過半数獲得へ (4面)  
赤城大鳥居の照明復活 (19面)

</